

研究最前線

現代日本政治と利益団体の研究 • Study of Contemporary Japanese Politics and Interest Groups

岩崎卯一先生から継承される 関大政治社会学の系譜

客観的視点で、社会と政治の動態をとらえる

The Genealogy of Political Sociology at Kansai University Inherited from Professor Uichi Iwasaki

Understand the Social and Political Dynamics from an Objective Perspective

- 政策創造学部 小西 秀樹 教授
- Faculty of Policy Studies — Professor *Hideki Konishi*



▲上林先生(前列中央)と門下生の皆さん。小西先生は後列左
Professor Kanbayashi (front row center) and his students.
Professor Konishi is on the left in the back row.

関西大学が大学令に基づき大学に昇格した100年前、大学初の専任教授の1人だったのが、後に学長に就任する岩崎卯一だった。岩崎は社会学、政治学分野を専門として、国家現象の本質や社会学史、実践的な社会政策等を、学際的なアプローチによって多角的・客観的に分析して論じた。その学風は、岩崎の薫陶を受けた上林良一教授から、さらに上林教授の教え子である小西秀樹教授へと受け継がれた。関西大学の源流とも言える小西教授の研究は、利益団体などの多様なアクターが影響し合いながら、時代と共に動いていく戦後日本の政治過程を解き明かす。

A hundred years ago when Kansai University gained university status under the University Ordinance, Uichi Iwasaki, who later became the university president, was one of the first full-time professors at the university. He specialized in the fields of sociology and political science, and he analyzed the nature of state phenomena, the history of sociology, and practical social policies from a multi-disciplinary and objective perspective. These academic traditions were passed down from Professor Ryoichi Kanbayashi, who was under Iwasaki's tutelage, to Professor Hideki Konishi, who was a student of Professor Kanbayashi. Professor Konishi's research, which can be said to be the origin of Kansai University, reveals political processes in postwar Japan, in which various actors such as interest groups influence each other and move with the times.



◀研究室の本棚には大学院生時代の指導教員・上林良一教授から受け継いだ蔵書が並び
Professor Konishi's laboratory with a collection of books inherited from Professor Kanbayashi

▼学部生時代に在籍した千里山法律学会から出場した討論会で準優勝し授与された賞状
Certificate of award for winning second place in a debate contest while a student



「日本政治をやるのは早い」と言われた大学院時代

—現在の専門分野について教えてください。

専門分野は政治社会学です。特に、戦後日本政治における利益団体と政党の関係を中心に、政治の理念ではなく、現実の社会構造と政治過程、政策の関係を実証的に研究してきました。利益団体には、経営者団体、労働者団体、あるいは環境保護運動といった市民運動など、さまざまな組織や集団があります。

政治に興味を持ち始めたのは高校生の頃で、友人たちとよく議論していました。ちょっと変わった高校生ですよ。当時は中曽根長期政権の時代でした。そして1986年、ちょうど関西大学創立100年の時に、法学部政治学科に進学し、3年次からは、現代政治をやるならここだと学生間でも評判だった上林良一先生のゼミに入りました。利益団体の研究も、上林先生が長年取り組まれてきたテーマの一つです。

—上林先生のご指導はどのようなものでしたか。

上林先生は理論的かつ紳士的な方で、落ち着いた、優しい雰囲気のご指導でした。当時はリクルート事件、冷戦終結、そしてバブル崩壊など、日本経済、政治が大きく揺れ動いた時代。卒業論文は「自民党の派閥政治」をテーマにまとめ、大学院でも上林ゼミを志望しました。私は当然、日本政治を継続して研究できると思っていましたが、上林先生から「現代の日本政治の研究など、100年早い。諸外国の政治からしっかり学びなさい。日本の制度と似たところがあるイギリス政治を研究しなさい」と言われ、それまで考えもしなかったイギリスの議会や政党、利益団体の歴史を研究することになりました。もういきなり大荒野に放り出されたような気持ちだったのを覚えています。結局、後期課程も含め大学院5年間は、ヨーロッパにおける政党政治、利益団体の研究を続けました。当時のイギリス政治はサッチャー保守党政権の末期で混迷の度を深めており、変動期の日本政治を考える上で、比較しながら勉強になることが多かったですね。

研究したいと願っていた日本政治に本格的に取り組めたのは、結局、関西大学の教員になってからでしょうか。実際に「政治過程論」などの授業の内容を固めるためにも、日本政治について論文にまとめ、日本政治に関する教科書も分担執筆するようになりました。

“It is too early to study Japanese politics” - Graduate school

— What is your current area of expertise?

I specialize in political sociology. In particular, my focus is on the relationship between interest groups and political parties in postwar Japanese politics, and I have conducted empirical studies on the relationship among actual social structure, political processes, and policies, not political ideals. Interest groups consist of a variety of organizations and groups, such as employers' associations, labor unions, or civic movements including the environmental protection movement.

My interest in politics began when I was in high school, and I would often discuss politics with my friends. I was kind of a strange high school student. It was the era of Nakasone's long-term administration. In 1986, the 100th anniversary of the foundation of Kansai University, I entered the Department of Political Science in the Faculty of Law, and from the third year on, I joined a seminar taught by Professor Ryoichi Kanbayashi, who had a good reputation among students that this was the best place to learn modern politics. The study of interest groups was one of the themes Professor Kanbayashi had been working on for many years.

— What was Professor Kanbayashi's teaching like?

Professor Kanbayashi was a theoretical and gentlemanly person, and he taught in a calm and gentle manner. At that time, the Japanese economy and politics were greatly shaken by the Recruit scandal, the end of the Cold War, and the collapse of the bubble economy. I wrote my graduation thesis on LDP factional politics and applied for Professor Kanbayashi's seminar in the graduate school. Of course, I thought I could continue to study Japanese politics, but Professor Kanbayashi said, "It's 100 years too early to study modern Japanese politics. Learn from the politics of other countries. Study British politics, whose system shares similarities with that of Japan." So, I started to study the history of British parliament, political parties, and interest groups—topics had never even thought of before. I remember having felt I was suddenly thrown into the wilderness. In the end, I continued studying party politics and interest groups in Europe for five years in graduate school, including my doctoral course. British politics at that time was getting more and more chaotic at the end of the Thatcher Conservative Party administration, so I learned a lot comparing that with Japanese politics during the period of change.

It was not until I became a faculty member at Kansai University that I was able to seriously work on research regarding Japanese politics as I previously wanted. In fact, in order to finalize the content of classes such as Theory of Political Process, I began to write theses on Japanese politics and co-author textbooks on Japanese politics.

— Why did you decide to go to graduate school instead of getting a job?

When I was an undergraduate student, I was approached by an upperclassman at my boarding house and asked if I would join the

■研究最前線



◀ 小西教授の共著書(分担執筆)
Books co-authored by Professor Konishi

—就職ではなく、大学院へ進学しようと思ったのはなぜでしょうか。

学部生時代、下宿先の先輩から声を掛けられ、学術研究会「千里山法律学会」に入部し、学生同士で法律について勉強し、他大学の学生と大会で討論するという活動をしていました。私は民法の研究チームに属し、3年次に出場した大阪弁護士会主催の討論大会で、準優勝することができました。当時はバブル絶頂期で、企業から入社のお誘いもありましたが、本来の志望である政治学の研究意欲が俄然強くなったのも、この千里山法律学会での活動のおかげです。

■政治はどう動くのか。安易に評価せず、現実を知る

—2007年からは新設の政策創造学部に移籍されました。

政策創造学部は、地域社会や地域活性化といったテーマに関心を持つ学生が多く、私自身も戦後日本の政治研究と同時並行で、地方自治体や地域政治の研究にも領域を広げることになり、日本各地に実態調査に行き、その内容や成果を授業やゼミで生かすようになりました。

—現代政治を研究するにあたって、心掛けていることはありますか。

学生には簡単に善し悪しを決めるのではなく、どのような理由や仕組みで政治が動いて、今の政策形成につながっているのか、その過程や背景を知ることが大切だと伝えるようにしています。それは、私も上林先生から叩き込まれたことです。

今振り返ると、学部時代、上林ゼミに入ったばかりの頃の私は、テレビの討論番組などで聞きかじったことを、そのままゼミで話していて、恐らく上林先生は、浅はかなことを言っているなど思われていたのではないのでしょうか。それを直すために、イギリスを研究しなさいと仰ったのではないかと今更ながら感じています。

現実の政治を扱うからこそ、表面だけで安易に評価したり、意見を口にしたりしてはいけません。そういったストイックな部分を上林先生は持たれていました。先生は終戦間際に海軍に入られ、戦地に赴く前に終戦を迎え、勉学の道に戻られた。それまでの価値観が全て揺らぐ社会状況の中で、大学生として勉学を再スタートされた。その影響もあってか、一つの価値観にとらわれ過ぎず、幅広く、多角的に物事を見るべきだと考えられていたように思います。

その上林先生を指導されてきた岩崎卯一先生もまた、第一次世界大戦の真っ只中に渡米し、社会学や政治学を勉強され、帰国した時の日本は大正デモクラシー。やはり岩崎先生も、激動の時代を生きて、政治や社会の動きを多様に、多角的に見ることの重要性を示されています。それを、上林先生へと伝えられたのではないのでしょうか。

岩崎先生が38年、その後上林先生が38年、そして私が教鞭を

執って24年、合わせて100年になります。私自身は本当に微力ですが、関西大学で岩崎先生から始まった、現実の社会や政治動態を考察する政治社会学研究の流れを引き継いでいけたらという思いがあります。

■主体性を尊重。多角的に現実を見る力を育てる

—大学院ではどのような指導をされているのでしょうか。

どんな研究テーマを選ぶのかは、大学院生自身に、自由に任せています。首相のリーダーシップや政権交代、日本外交から農業政策、教育政策など、大学院生が選ぶテーマは幅広くなっていますね。

ガバナンス研究科には本学学部や他大学からの進学者のほか、社会人や留学生も在籍し、地方議員やビジネスマン、専門職の資格を持つ方など、さまざまなフィールドから世代を超えて集まっています。多彩な方が相互に刺激を与えながら、多角的に研究を掘り下げてもらえたらいいですね。ガバナンス研究科は学際的で、教員の専門も政治、法律、経済など幅広く、いろいろな分野の専門家から指導を受けることができます。指導教員と副指導教員が連携して大学院生を指導する仕組みを取っており、大学院生の研究テーマに応じて、教員を組み合わせています。大学院生の主体性をまず尊重し、その上で学術的に論文に仕上げられるようなサポートをしているわけです。

現実の政治は非常に生々しいもので、それを適切に学生に説明するのはなかなか難しい。学生は自分の関心のあるものばかりをネットで見聞きし、表面的な見方のまま、自分の中で納得してしまうことがあります。自分の世界だけに留まるのではなく、広く現実を知ってほしい。本当の現実には自分の考えで作った“現実”だけではない。皆が今まさにこの現実を作っている。その皆がどのように動き、どのように考えているのか、その仕組みをしっかりと学んでほしいと思っています。また、自分の描く結論に向けて、どう論理を組み立てるのか、そのプロセスを楽しんでほしいですね。

学生は授業で学んだことを参考に、現実の政治というもの自身でとらえ、判断し、実際の行動につなげていきます。学生に与えるその影響は大きく、教員として重責を感じています。「教室では学生との一対一の気持ちで授業をこなさい」と上林先生から諭されたことがあります。常に緊張感をもって真剣に取り組まねば一顧の価値もない、ということです。先生のこのお言葉が今も私の支えです。学生時代から過ごすこのキャンパスで与えられた自身の責任を果たしていきたいと思っています。

—研究上の今後の抱負をお聞かせください。

まず一つは、やはり歴代最長の安倍政権をどうとらえるのか、首相、自民党、そして利益団体、これらの関係がどのように変わったのか、具体的な事例を踏まえ研究していくこと。もう一つは、少子高齢化や過疎化がますます深刻になっていく社会状況の中で、日本の地域社会ではどのような変化があったのか、コロナ禍の影響も含め、地域政治や国土政策の新展開を調査・追究していくことが目の前の課題です。



◀ 関西大学博物館内で展示されている岩崎卯一元学長のコーナー前で
In front of former president Iwasaki's exhibit at the University Museum



◀ 小西教授の論文集
Collection of theses
by Professor Konishi

Senriyama Law Society, an academic research group. There, I studied law with students and debated with students from other universities. I was a member of the civil law research team and in my junior year won second place in a debate contest sponsored by the Osaka Bar Association. At that time, it was the height of the bubble economy, and companies offered me a position, but thanks to my activities at the Senriyama Law Society, my desire to study political science, which was my original ambition, suddenly grew stronger.

■ How does politics work?
Know the reality without evaluating carelessly

— In 2007, you were transferred to the newly established Faculty of Policy Studies.

The Faculty of Policy Studies has many students who are interested in themes such as local communities and regional revitalization, and I myself decided to expand my field of research into local governments and regional politics at the same time as I conducted political research in postwar Japan. I visited various regions in Japan to conduct fact-finding surveys, and I began to use the results of these surveys in classes and seminars.

— Do you have anything in mind when you study modern politics?

I tell students not to rush to a decision but to learn the reasons and mechanisms by which politics operates and the processes and backgrounds that lead to the formation of current policies. That is what Professor Kanbayashi taught me.

Looking back now, as an undergraduate student, when I first joined Professor Kanbayashi's seminar, I talked about what I had heard on TV discussion programs in the seminar, and Professor Kanbayashi was probably thinking that my comments were superficial. I now feel that is why he told me to study British Politics to correct it.

Because we deal with real politics, we should not make superficial evaluations or express opinions. Professor Kanbayashi had such a stoic side. He joined the Navy just before the end of the war and returned to his studies as the war ended before leaving for battle. He started studying again as a university student in the society where all his previous values were shaken. Because of this, he believed that people should not be too obsessed with a single set of values but should look at things in a broad and diversified way.

Professor Uichi Iwasaki, who had been mentoring Professor Kanbayashi, also went to the United States at the height of the First World War. There, he studied sociology and political science. When he returned to Japan, Japan was a country of Taisho Democracy. Professor Iwasaki has also shown the importance of looking at political and social movements in a diverse and multifaceted way in turbulent times. He may have taught that to Professor Kanbayashi.

Professor Iwasaki taught for 38 years, Professor Kanbayashi for 38 years, and I have been teaching for 24 years. That is 100 years in total. My contribution may be limited, but I hope I can continue the

trend of political sociology study—examining real society and political dynamics—that began at Kansai University with Professor Iwasaki.

■ Respect for independence. Nurture a multifaceted view of reality

— What kind of academic advice do you provide in the graduate school?

I leave it up to students to choose their research theme. The themes graduate students choose range from the leadership of the prime minister, the change of government, and Japanese foreign policies to agricultural policies and education policies.

In addition to students from our faculty and other universities, working adults and international students are also enrolled in the Graduate School of Governance. Members of various fields, such as local assembly members, businessmen, and those with professional qualifications, come from all generations. It would be nice if various people dig into research from various aspects while inspiring each other. The Graduate School of Governance is interdisciplinary, and its faculty members specialize in a wide range of fields, including politics, law, and economics. Students can learn from faculty members in a broad range of fields. The academic advisor and the assistant advisor work together to provide guidance to graduate students, combining faculty members based on the research theme of each student. We respect the independence of graduate students first, and then support them so that they can complete their theses academically.

Real politics is so raw that it is hard to explain it properly to students. Students see and hear only what they are interested in on the Internet, and they may be satisfied with their superficial views. I want them to know the reality widely, not just stay in their own world. The reality is not just the reality created by one's own ideas. Everyone is making this reality right now. I want them to learn how everyone behaves and thinks. Also, I want them to enjoy the process of how to build a logic to reach a conclusion they have in mind.

Using what they learn in class as a reference, students grasp and judge real politics by themselves, and this leads to actual actions. The impact on students is considerable, and I feel a heavy responsibility as an instructor. Professor Kanbayashi once admonished me to teach as if one-on-one with each student. It means that if I don't always take it seriously and earnestly, it is quite worthless. His words still support me. I want to fulfill the responsibility I was given at this campus where I spent my days as a student.

— What are your future research ambitions?

The first is to study based on concrete cases how to perceive the Abe administration, which is the longest in history, and how the relationships among the prime minister, the LDP, and interest groups have changed. Another is to study and pursue new developments in regional politics and national land policy, including the impact of COVID-19, and what changes have taken place in Japanese local communities in the midst of an increasingly serious social situation with the declining birthrate, aging population, and depopulation.